

松浜地区コミュニティ協議会

基本情報

【活動地域（人口・世帯数）】
新潟市北区松浜地区（10,835人，4,291世帯）

【実施期間】
令和7年6月～

【活動概要】
地元の新潟医療福祉大学との協働で、①学生活動拠点づくり、②朝市・商店街イベントへの出店、③県外大学も招いたフィールド合宿の実施（5大学合宿）。

【地域外人材・団体】
岩手県立大学、京都産業大学、福知山公立大学、神戸大学

取組のきっかけ（地域課題等）と目的

【地域の現状と課題】
歴史ある六斎市と商店街の衰退、若者の流出と、特に20代・30代の若者の地域参画意識の希薄化。

【目的・目指す姿】
新潟医療福祉大学の学生を「新たな地域の担い手」として位置づけ、商店街に学生の活動拠点をつくり、まちのイベントを企画し実施する。取り組みを通じ、当事者意識高く地域に参画し、卒業後においても“第二の故郷”のように地区にかかわる若者を育成する。



＜学生が朝市に出店＞

取組の内容

①学生活動拠点づくり
商店街にあるシニアの通いの場（こらぼ家）を借りて、学生団体による活動拠点としている。当協議会、商店街組合ならびに朝市組合との連携事業を、以下とおり多数展開した。

②各種イベントの企画・実施とモバイル屋台制作
こらっせ松浜市・キテミテキタクの出店、松浜夜市、こどもハロウィン、クリスマスイベント等のイベントプロデュース。モバイル屋台については、上記の企画・出店経験をふまえ、コンセプトと仕様を検討し、2月末日までに完成。次年度からの活動は学生が“自前”の屋台で。

③5大学合宿
令和7年9月11日～13日において、商店街・朝市エリアにおいて、フィールドワーク型の合宿を実施。連携大学である新潟医療福祉大学をはじめとし、岩手県立大、福知山公立大、京都産業大、神戸大から学生44名、教員5名が集まり、地区の持続可能性に関する解決策を提案。このうち、実現可能性の高いアイデア（右の今後の展望欄に記載）について、地元の新潟医療福祉大学の学生団体が、当協議会等との連携のもと、地域に実装していくことになっている。

取組の成果

- ・ 新潟医療福祉大学の学生・教員が、まちづくりの研修会(3回)、まちづくりの会議・交流企画(5回)、まちのイベント(8回)に参加。次第に企画段階からの参画の機運も生まれ、ゼロから企画プロデュースした事業も1つある。当協議会の役員やまちの親子等住民と触れ合った経験には得難いものがある。
- ・ 本事業をきっかけとして、新潟医療福祉大学に学生18名からなる学生でまちづくり団体「HAMATTE」が誕生し、今後は自律的な活動展開が期待できる。
- ・ 県外大学も交えたフィールド合宿から得られた提案事項(下記)も、今後実施していくことになっている。



＜浴衣あるきイベントのプロデュース＞

今後の展望と課題

- ・ 「こらぼ家」を引き続き学生団体の活動拠点とし、次年度以降もまちづくり活動を継続する。事業で制作したモバイル屋台を活用し、地区の子ども・若者を巻き込み活動を拡大していく。
- ・ 5大学合宿から提案をふまえ、当協議会内に“子ども・若者ワーキンググループ”を発足させ、新潟医療福祉大学の協力のもと、活動の発展を図っていく。
- ・ 同大の学生まちづくり団体「HAMATTE」ならびにその指導担当である鎌田剛教授のゼミ生との連携を強化していく。



＜学生活動拠点で親子イベント＞